

作 詞

池内雅子・伊藤かおる・野崎 稔 選

知 事 賞

くらげのすなどけい

和 田 祐 子（大津市）

一、わたしにとってせかいというものは
このげんじつのなかだけなのかしら

いびつながらすのなかに

ゆめがうつってながれている

そのゆめのなかのわたしなら

やまもかわもうみさえこえて

すきなひとにもあいにいける

くらげのまるいあたまのなか

そのゆめのひとつひとつが

かがやきながらながれてく

二、おちてくるしずくのひとつぶずつが
やさしくかなしいねむりへいざなう

いびつながらすのそこに

ゆめがゆっくりたまっている

きらめくきぼうをうつしだす

すなどけいのがらすのすなを

すくいのかさないようにして

くらげはそつとささやいてる

ほしほしがながれていくよ

ほらめをひらいてみていて

くらげはがらすのそこから

いやすようにゆめをあつめ

作 詞

せまいつろをとおりぬけ
ゆらりゆらりとほりつめ

またすなどけいのうえのほうへ
そして

ゆめをばらばらとはきだすのだ
ぷくん